

2015年8月
1084号

万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

赤松良子先生の誕生日お祝いの会 若手メンバーの学びの報告 (その3) ～赤松先生の真心から生まれた人権紙芝居～

赤松先生のお誕生日お祝いの会の様子は、万葉 1081 号でお伝え致しました。先生の前で櫻華塾での学びを若手メンバーが発表いたしました、その内容をお伝えいたします。

櫻華塾グローリア部光 G の村岡清佳です。赤松先生を先頭に大先輩そして多くのご支援のお陰で、一冊の会が 10 月 25 日日曜日に目黒雅叙園にて 50 周年を迎えることが出来ることは、本当に嬉しく思います。

この黄金の歴史の大きな土台の一つとなったのがこちら、「1946.4.10 初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発」(たびだち)の出版です。日本の女性が初めて投票できた調査は重要な女性史の一ページとなり一冊の会は 1998 年市川房枝基金を受賞しました。ご指導下さった赤松良子先生、山下泰子先生は大変お喜びになり、心から一冊の会を讃えて激励して下さいました。全国を歩き回った金の汗は見事に実を結びました。40 周年の市ヶ谷グランドホテルの大成功に対して赤松先生は「二人でご飯でも食べなさい」と大槻会長と小山さんに封筒を渡されたそうです。後ほど封筒の中を見て大槻会長は嬉しさに泣かれたそうです。なんと大金が入っていました。赤松先生は、お言葉は少ないけれどすべてお見通しでした。感謝でいっぱいになり、大槻会長、小山さん達はこれを基金にして赤松先生の真心を何に使おうかと考えた結果、赤松良子世界インターネット配信部を設立しました。今年で 9 年目になります。このインターネット配信をいつも待ち望んでいた一冊の会のメンバーの一人が私でした。

大槻会長はこの世界インターネット配信のみならず、人権紙芝居をつくり、全国を回り読み聞かせの出前講座を開講しました。制作した紙芝居の数は全部で 12 編とのこと。全国行脚の様子は「世界と議会」でも報告されました。この時の「世界と議会」の冊子ですが、赤松先生には、こちらのコピーを用意いたしました。どうぞお持ちください。

ここで赤松先生に喜ばしいご報告が御座います。今回、一冊の会の 50 周年にあたり、なんと当時読み聞かせした日本全国を回った人権紙芝居から「憲政の父・尾崎行雄」と「楠瀬喜多・女性参政権要求第一号」の 2 つをまずは DVD にすることに決定致しました！ 私は光栄なことに尾崎号堂先生の人権紙芝居を朗読させて頂くという大役をこの度頂くことが出来ました。監修は相馬雪香先生です。文章も絵も大変素晴らしいもので当時先輩方が作成したものを使用させて頂きます。



ここで少し尾崎罌堂の人権紙芝居の冒頭を紹介させていただきます。

国会議事堂、国会図書館の南側に、憲政記念会館はあります。門をくぐり、最初に目に飛び込んでくるのは、憲政の父といわれた、尾崎行雄の銅像です。その足元には、花崗岩に刻まれた「人生の本舞台は、常に将来に在り」との言葉があります。帽子を持った右手を高くかかげた尾崎の銅像は、「さあ、一緒に、世界から尊敬される、愛される日本を創ろう—平和の為に闘うあなたを、同じ心で、同じ道を歩むあなたを、待っていましたヨ」尾崎行雄は、そう語りかけているようです。

この紙芝居では、こよなく人間を愛し、人間の真の強さと優しさを持った“人間尾崎行雄”にスポットをあて語りあって参ります。

尾崎行雄は、幼名を彦太郎といい、安政 5(1858)年、神奈川県津久井郡又野村、現在の津久井市に生まれました。尾崎 12 歳の時、父が、明治政府の役人となって東京に住むようになり、母に連れられて上京しました。その後父に伴って高崎、三重へと移り住み、それぞれの地で漢学や英語を学び、西洋の知識を吸収しました。激動の社会の大きな渦の中で幼少期を育った尾崎少年は、板垣退助によって発表された民生議院設立の“建白書”を読み、尾崎の一生を貫いた民生政治へのあこがれが、小さな胸の中でふくらんでいきました。青雲の志しを抱き、東京へ向かったのは、尾崎 16 歳の時でした。

本日は時間が限られておりますので尾崎罌堂先生の紙芝居の冒頭のみをご紹介しますが、もう一つの紙芝居の主人公、楠瀬喜多は、坂本龍馬の幼友達です。こちらの朗読は先輩の倉持さんが担当されます。監修は中田美子先生です。

赤松先生、10月25日にはこの紙芝居のDVDを一冊の会50周年の記念品として皆様にお渡しします。私はこの紙芝居を50回以上読み、収録に臨んでおります。完成したDVD尾崎罌堂のナレーターを担当した誇りを胸に、尾崎先生の素晴らしい生き様を後世に伝えて参ります。

以上のように発表させていただき、一冊の会副理事長である石田尊昭尾崎財団理事・事務局長から「尾崎罌堂、楠瀬喜多の人権紙芝居のDVD完成を楽しみにしております。尾崎は平和の信念を曲げずに戦いました。一冊の会も一本の鉛筆、一冊の本から平和づくりが始まると掲げて50年の会です。赤松先生と共にこれから先50年、みなで頑張りたいと思います。」とお言葉を頂きました。

赤松先生も、強く平和の貴さを説かれます。幸せにも戦争の悲惨さを直接聞くことができる私達の世代が、次代に語り継いでいくことがいかに大切かを改めて実感いたしました。

文責 グローリア部 村岡清佳

